

2019/04/07

## 「誰が成功者？」

すべての人は、成功したいという願いを持っています。人は皆、人から良く思われたい、富を手にしたいという共通の願いを持っており、功績を遺したり、賞を取ったり、富を手にしたりすることが成功者になることだと思っています。しかし、パウロは次のように語ります。

「ですから、私はあなたがたに勧めます。どうか、私にならう者となってください。」

(I コリント 4:16)

聖書は、信仰の人々や神にならう者となりなさいと教えてています。それが、聖書が教える成功者です。

### ■聖書が教える成功者

#### • アダム

アダムは、蛇に誘惑され、罪を犯し、自分の姿を恥ずかしいと思い、神を恐れて隠れてしましました。しかし、そんな彼に神は皮の衣を作つて着せてくださいました。

このアダムから学ぶべきことは、彼は絶望したということです。しかし、その時、彼は神の愛と出会いました。これが、神からすると成功者なのです。

「たとえ全世界を手にしようとも、まことのいのちを損じたら何になろうか」と聖書は語ります。つまり、神との出会いがなければ成功者ではないのです。

私たちは、アダムと同じように誘惑に弱く、騙され、自分を恥じてかくれんぼをするような人間です。そのことを認め絶望する時、神の愛を本当に知ることができます。闇がなければ、光は輝きません。アダムは絶望することによって、その愛を知ることができたのです。

#### • ノア

ノアは、一人で箱舟を作り、人類を助けた英雄です。しかし、人生の集大成ともいえる晩年、ノアはぶどう酒を飲んで酔いつぶれ、裸で天幕に寝てしまいました。今でいえば、酔っぱらった牧師が裸で礼拝堂で寝ているようなものですから、ひどい醜態です。

通常、偉人の伝記を書く時は、本人にとって都合の悪いことはカットするものです。それなのに、なぜわざわざこんなことを書いたのでしょうか。

酔いつぶれるまで酒を飲むとは、ノアは何かに苦しんでいたのでしょう。つまり、ノアは絶望しており、この絶望を通して、さらに神と強く結びつくことができたのです。神に正しい人と言われ、人類を救ったノアですが、彼もまた私たちと同じように絶望する人間であった点を見落とさないようにしましょう。

- アブラハム

信仰の父と言われるアブラハムに関しても、聖書は彼にとって不都合と思える点を包み隠さず記しています。聖書には、本人さえ語らなければ誰にも知られずにすむ話が多く記述されており、あえて本人がそれを語ったことを示しています。それは、彼らがそこに神と深く結びつくことができる祝福を見出したからなのです。

アブラハムは、他国を通る際、妻のサラを妹だと偽りました。自分の身を守るためです。サラは美人だったため、王はサラを自分の妻に召し抱えようとしました。アブラハムは絶望し、神に祈って、その危機を神に助けてもらうことができました。その後、神はアブラハムとサラに「子どもが生まれる」と約束してくださいましたが、もうとっくにその年齢を過ぎていたサラは笑ってしまい、自分が子供を産むのは無理だからと、じぶんの召使いを夫に差し出しました。召使いはアブラハムによってみごもり、イシュマエルを産みます。しかし、これは神の御心ではありませんでした。イシュマエルはアラブ人の祖先になり、今なおイスラエルとアラブの対立が続いています。

信仰の父であるアブラハムが、妻以外の女性と関係を持ち、子どもを作り、その子を跡継ぎにしようとまで考えたのです。このような出来事をわざわざ記録したのは、これによってアブラハムが絶望し、神の恵みを知ったからです。アブラハムは、神のことばを無理だと考えて自分で問題を回避しようとし、とんでもないことになってしまいました。彼も私たちと同じ弱さを持った罪人だったのです。彼はつらさから逃げることができず、絶望するしかありませんでした。しかし、その絶望によって神の祝福を受け取ることが出来ました。絶望したアブラハムは、こんな私でも愛されていると知ることができ、神の恵みを知り、まことの信仰を持つようになったのです。アブラハムにならうとは、そういうことです。

- ヤコブ

ヤコブは、イスラエル12部族の祖先の父で、神から「イスラエル」という名をいただいた人物です。

若い時の彼は、双子の兄をおしのけ、父をだまして長子の権利を奪ったために、兄から命をねらわれて、やむなく逃亡生活を送るようになります。そして、逃亡先のおじの家でその娘に一目ぼれし、おじにだまされて14年もの間ただ働きをさせられてようやくその娘を妻としたのです。その後、金儲けに走ったヤコブは、嫉妬を買ってそこにいられなくなり、再び逃亡生活を送るようになり、やがて兄に見つかっていよいよ殺されるかもしれないという時、逃げ場のなくなったヤコブは一晩中神に助けを求めました。ヤコブは逃亡を繰り返しましたが、ついに絶望する勇気を持った時、神の声を聞き、人生が変えられました。

- ヨセフ

ヨセフは、12人兄弟の末っ子で甘やかされ、頭が良く、兄たちの嫉妬を買ったために奴隸として売り飛ばされてしまいます。その絶望の人生の中で、しっかりと神を見ることができ、奴隸から大臣になった人物です。エジプトの大尉という肩書だけを見るとこの世の成功者と変わらないように思えますが、その始まりには絶望があったことを忘れてはなりません。

- モーセ

モーセは奴隸だったイスラエル人を連れてエジプトを脱出する英雄中の英雄ですが、神に用いられるまでの40年間、砂漠に逃亡していました。王子として育てられ、自分の力で同胞を助けようとして失敗し、殺人者として追われ、砂漠に逃げ、絶望して神のことがわかるようになったのです。モーセもまた、絶望の中にあったということを私たちは学ばなければなりません。

- ダビデ

イスラエルを世界最強に作り上げたダビデですが、部下の妻と関係を持ち、その部下を激戦地に送って戦死させ、部下の妻を自分の妻とするということをしています。英雄であるダビデが、なぜわざわざ後世にこのことを伝えようとしたのか、それは、人とは、絶望して神の助けを乞うものだということを私たちに伝えるためです。彼は、私たちと何ら変わらない男であり、罪人であり、絶望してただ神の前にひざまずいて祈った人間でした。その自分の罪深さに絶望した時こそ、彼は神のあわれみを体験することができたのです。

- ソロモン

ダビデよりも強大な国を築き、巨万の富を築いたソロモン王は、妻を700人、そばめを300人持っていました。しかし、富と女という世の楽しみを追求したソロモンが出した結論は、「すべては空の空」という絶望です。彼は絶望し、それを受け入れ、結局何を手に入れても虚しいということを悟り、ただ神に祈りました。こうして、伝道者の書や箴言が出来上がったのです。

- ヨブ

ヨブの信仰は神も認めるほどでしたから、彼は神の目から見た成功者と言えるでしょう。しかし、子どもを失い、財産を失い、病気になり、友だちを失い、度重なる患難に遭って、ついに神に対してつぶやいてしまいます。ヨブ記には、ヨブの絶望の葛藤の様子が記されています。そして、ヨブの絶望が頂点に達した時、神の祝福が見えるようになるのです。

なぜ神はヨブを素晴らしいと言ったのか、それは彼が絶望を引き受ける勇気を持っていたからです。その勇気とは、自分の置かれた運命、患難を引き受け、神に「助けてください」と求ることです。私たちはヨブからこの勇気を学ばなければなりません。

- エステル

エステルは、ユダヤ人がペルシャの捕囚民だった時代に、ペルシャの王妃となったユダヤ人女性です。ユダヤ人を憎む高官が全ユダヤ人の殺害を計画した際、育ての親から頼まれて、自分の命をかけてユダヤ人救済を王に願い出ました。しかし、当初エステルは、なぜ自分が王妃になったのか神の計画を知った時、その重さに耐えられず逃げたいとさえ思いました。これがエステルの絶望です。エステルは絶望の中で自分の運命と向き合い、断食して祈るから皆も祈ってほしいと頼みました。この時エステルは神を見、はっきりと神が自分を助けて

くれることを知り、奇跡が起きたのです。

- ペテロ

ペテロは自他共に認めるイエス様の一番弟子ですが、イエス様が十字架に架かる前、「こんな人は知らない」と言って、3度イエス様を裏切りました。そんな自分にペテロは絶望し、その絶望の中で、こんな私でも愛してくれるという神の愛に触れました。

ペテロがイエス様を裏切ったことは、ペテロが黙っていれば誰にも知られません。しかし、それをしなかったのは、絶望こそ神を知る入り口であることを知ったからです。神が信仰の人々にならうように言ったのは、この「絶望」です。絶望する勇気を持てば、神が本当にわかるようになるのです。これこそが神の目から見た成功者なのです。

- パウロ

パウロは立派に律法を守っているパリサイ人としてふるまっていましたが、本当は自分で実行したいこともできない罪深い人間であることを告白しています。また、パウロの祈りには力があると評判でしたが、自分の病に対しては3度祈ったけれど癒されなかつたことも告白しています。パウロは、私たちと同じ罪深い人間であったと、自分で書いているのです。

私たちは、「誰かにならえ」と言われると、あの人のように立派なことが出来なければいけないと思いがちです。しかし、パウロが「私にならう者となってください。」と言っているのは、「自分の弱さを引き受ける人間になりなさい」ということです。絶望を認められる人間になることこそが、神を知る入り口なのです。

- イエス・キリスト

意外に思われるかもしれません、イエス・キリストもまた絶望する勇気を持っていました。聖書はキリストにならうように教え、人々はキリストに憧れを抱きます。しかし、それは決して輝かしい姿ではありません。神でありながら人としてこの地上に来たイエス様は、ご自分の運命に絶望し、苦悩する姿を弟子達にお見せになっています。

「そしてご自分は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」すると、御使いが天からイエスに現われて、イエスを力づけた。イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしづくのように地に落ちた。」（ルカ 22:41-44）

罪人として十字架に架けられる苦しみをまともに引き受けようとするならば、絶望しかありません。イエス・キリストは、その運命をそのまま引き受けました。その結果、キリストは神によって引き上げられ、十字架で勝利を収めて復活なさいました。

私たちも、何を成し遂げようとも死によって奪われるという自分の運命とまともに向き合うならば、それは絶望でしかありません。この絶望を引き受ける時、神が引き上げてくださ

ることを、イエス様は身をもって示してくださったのです。

多くの人が誰の人生にも訪れる死から目を背け、絶望を先延ばしにしています。イエス・キリストはその絶望を回避しないで苦しみもがきました。これが、私たちが学ばなければいけない姿です。

自分が罪を犯すしかないという現実は絶望でしかありません。そこから逃げずに神に助けを乞うイエス・キリストの姿を見落とさないようにしましょう。イエス・キリストが初めて公の場で語られた、「山上の垂訓」は、次の言葉から始まります。

「イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話しだされた。「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものですから。いま飢えている者は幸いです。あなたがたは、やがて飽くことができますから。いま泣いている者は幸いです。あなたがたは、いまに笑うようになりますから。…」（ルカ 6:20-21）

貧しい者とは絶望する人のことです。飢えている人は絶望しています。貧しい人、飢えている人、泣いている人、自分が取るに足らないことを引き受け、まことに絶望するならば、あなたは幸いだとイエス様は言われました。これが神の目から見た成功者です。

つまり、絶望することしか出来ない「罪人」という宝を持っている私たちは、誰もが成功者になれるのです。世の中の成功者になるには能力が必要で、誰もがなれるわけではありません。しかし、それは本当の成功者ではありません。

「しかし、富んでいるあなたがたは、哀れな者です。慰めを、すでに受けているからです。いま食べ飽きているあなたがたは、哀れな者です。やがて、飢えるようになるからです。いま笑っているあなたがたは、哀れな者です。やがて悲しみ泣くようになるからです。みなの人にほめられるときは、あなたがたは哀れな者です。」

（ルカ 6:24-26）

私たちは人々から褒められることを望みます。しかし、神はそのような者はあわれだと語ります。なぜなら絶望できないからです。自分を高くする者がこの世での成功者ですが、神の前での成功者は自分を低くする者です。自分が低いことを受け入れられる者を神は高くするからです。私たちは逆のことをを目指していないでしょうか。

「人は、たとい全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得があります。」（ルカ 9:25）

素晴らしいと人から褒められれば褒められるほど、自分を失ってしまいます。罪を犯すしかなく、死の恐怖におびえ、人の目を恐れる自分を失っているのです。自分とちゃんと向き合い、この現実を生きるとき、神が必要だということが見えるようになります。神なしではどうすることもできない、これが現実です。イエス様は次のように語っておられます。

「ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』あなたがたに言うが、この人のほうが、前の人よりも、義と認められ、家に帰って行きました。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」（ルカ 18:13-14）

本当に絶望を引き受けたら、「神様助けてください」という言葉しか出ないので。絶望を引き受けるとは、自分を低くすることです。私たちは本来低い者であり、ただそれを認めることができるということなのです。しかし、多くの人がこの世に流されて「人生の成功」をめざし、間違った方向に向かってしまっています。

自分の現実と向き合って神に助けを乞うことこそ、あなた自身を取り戻す唯一の生き方であり、成功者の道です。そうすれば背伸びしないで生きることができ、平安に生きることができます。

あなたは逆を目指して、なぜあの人のようになれないのか、自分はダメな人間だと誤った失望をしていないでしょうか。あなたは、本当の絶望で涙しているのか、人と比べてダメだという愚かな涙なのか、自分の悲しむ涙の意味を考えてみましょう。

本当の苦しみとは、自分と向き合って絶望することです。誤った悲しみは誤った目標を持ち、誤った道を進むため、神に立ち返ることができません。

本当に自分を取り戻したければ、自分と向き合うことです。そのために、自分はなぜ悲しんでいるのか、今の苦しみは何かを考えてみましょう。誤ったものと比べて涙するのではなく、本当の絶望と向き合って、神に引き上げてもらう人生を受け取りましょう。